

「生き生き」を応援する、市民活動情報メディア

# animato

VOL.

28

アニマート

Winter 2020

アニマート  
animato とは、演奏記号に使われる言葉で、「生き生きとした」「活気のある」「魂のある」などの意味をもちます。

最終号

## 「孤の時代に」 市民活動の価値を捉え直す



Photo by Tomohiro Usui



# 「孤の時代に」

## 市民活動の価値を捉え直す

最後のアニマートのテーマを考えていくうえで、「孤」をテーマに「市民活動の原点、価値」を捉え直す号にしました。

この10年、大きな自然災害が多発し、人と人のつながりの大切さを思い知らされる一方で、「孤立」という言葉が頻繁にメディアから聞こえてくるようになりました。またテクノロジーの発展に時代の流れを感じつつも、そういう時代だからこそ、取材を通じて本当の自分を受け入れてくれる「場所」や「人との関係」が大切だと感じています。

今回の対談では、市民活動の原点を振り返り、未来を見据えるとともに、時代に合わせてどう変化すべきかを捉え直す機会をつくりました。

最終号、スタートです。





# 現場から 常に問いが生まれてくる ～ゼロの視点を持つ～

NPO法人親がめは、まちぐるみで子育てを応援したいという思いのもと、神奈川県地域子育て支援拠点「かなーちえ」の運営、親と子のつどいの広場の運営や神奈川県「すくすくかめっ子事業」の研修などを行っています。理事の塚原さんにお話を伺いました。

インタビュー…吉原明香（横浜市市民活動支援センター責任者）

## 自分自身の中の「変容」

**吉原**…今回、私たちは「市民活動の原点」をテーマに取材を行っていますが、塚原さんは子育て支援の現場で活動されていて、どのように考えていらっしゃいますか？

**塚原さん**…今、多様な連携・協働からの地域づくりを目指す公的な子育て支援が増える一方で、対価を支払って受けられるサービスやケアもたくさん生まれています。後者の方がスムーズで質も自分の価値観にマッチしているという声も聞こえる中、私たちの活動との違いは何か、このところ考えていたのですが、それは自分自身の中の「変容」なのではないかって思っただけです。

**吉原**…変容とはどういうことでしょうか？

**塚原さん**…ごちゃまぜ・多様性の中で、ふと、異質なものに会おう。偶発的に、色々な事や、モノ・人が、そして自分自身もどんどん変わっていく驚きや喜びでしょうか。

**吉原**…生活の中でも家族でまとまるとか、仕事も業界内だけ付き合っていくと煮詰まってしまうます。「えっ」て思うようなことも含めていろんな価値観と出会い、



子育てトークの様子



かなーちえの様子



(図1) まんじゅう理論 (精神科医 伊藤順一郎さん)

それによって自分が変わったたり成長したりしますよね。

### 人は人との間で生きる生き物

**塚原さん**…そうですね。やっぱり人は人との間で生きる生き物で、生涯変化していくことで喜びや何かを創りだしていく生き物なんだなと感じています。

**吉原**…それは心や脳がそれを求めているということでしょうか。最近ではロボットが人間の話し相手になる時代ですが。

**塚原さん**…私たちの世代はたまたま人ととの間で生まれ生きてきたという実感が、ちゃんと根っこにあ



理事の塚原さん

ります。でもこれからの時代は厳しくなっていくかもしれない。

現世代のニーズはキャッチしつ、自然な形で、ごちゃ混ぜの醍醐味をどう「場」に醸し出して「あれっ気づいたら」的な人を増やしていきけるかなと。

### まんじゅう理論

**塚原さん**…この前NHKの「あさイチ」という番組を見ていたらおもしろい図が出てきて、まんじゅうのあんこ(図1)の中にほんとの困りごとがあって…

**吉原**…それ私も見ました。まんじゅう理論っていうんですよね。

**塚原さん**…あんこの周りに「趣味」や「長所」「がんばり」「工夫」があって、私たちはすぐ困りごとの方に目がいきがちだけど、臨床心理士の福井里江さんによると、「あのアニメが好きなの?」とか、外側の領域からアプローチしていく方がいいそうです。これからは、ほんとにこれだなって。

**吉原**…その人の暮らしとか趣味とかあるのにそれを見ないで「ああ



プレイパークで遊ぶ子どもたち

引きこもっている人ね」とか。そうじゃなくて「〇〇が大好きな…」とかそれを膨らませていくとまんじゅうの皮が厚くなって、あんこの量が変わっていなくても相対的にどうでもよくなるっていう。

**塚原さん**…ストレートにここ(あんこ)に働きかける方法を模索しすぎたんだなって思います。周り同士が作用しあう働きかけの方が境界がばやけていいんだろうな。

### 外の場のチカラ

**吉原**…放課後の子どもの育ち合いも課題が大きいし、不登校は相変わらずどんどん増えるし、塚原さ

んは子どもの世界が危ういって実感されているわけですよ。その突破口みたいなものってどう思ってますか。

**塚原さん**…子どもの遊びの世界を大切に、プレイパークを運営している仲間の話を聞くと、「人間は野生の動物なんだ」「外がいんだなあ」って感じています。野外では手にするもの全てが変化の素材なわけです。外の場に着眼した多世代が集う場づくりは、それこそまじゅう理論の実践がどこでも誕生する宝箱になると実感しています。

**吉原**…塚原さんや親がめの皆さんは、子どもの発達とか、遊びの場とか、ファシリテーションなどを仲間から学び、学術的にも学んでいらつしやるわけですね。どうして学びつづけることができるんでしょうか。

**塚原さん**…自分がどんどん変わっていくし、それを仲間とすりあわせられる喜びがあります。そうするとさらにどんどん変わっていく。それが幸福感になるんです。

**吉原**…市民活動と生涯学習っていうのは循環だということは聞いていますが面白いですね。

**塚原さん**…そうやって変わっていくって、結果的に自分にとって思いがけないものがポロツと生まれちゃう面白さがありますよね。

### ゼロの視点を持つ

**吉原**…人間はより良く生きるってことを目指したい生物っていうことでしょうか。

**塚原さん**…「より良く」っていうと良いか悪いかになってしまいますが、「ゼロ」でいい。どっちにもぶれないその人らしさでいいって思っています。結論があるんじゃないかって聞いていることが大切だと。

**吉原**…それって哲学的な事ですか？

**塚原さん**…そこまでは……。現場から常に問いが生まれてくるんです。それをみんなと考えるし、みんなが学ばし、現場に行き行って観るわけです。それを繰り返すと、どんどんゼロのベースに整っていく。

く。プラスでもマイナスでもないいつもフラットな立ち位置がだんだん手に入ってくるんです。

**吉原**…たしかに良いか悪いかではないゼロの視点っていうのは長い間市民活動を経験したからこそ体感できることですね。

**塚原さん**…ゼロでいられると物事に対して常にすき間が空くんですね。良いか悪いかでいうとプラスかマイナスにふれてしまいませんが。

良いか悪いか言い始めると環境問題でもなんでも「ペットボトル捨てる人がダメ」となってしまうけれど、そうじゃない社会をどうやって作っていくか。

**吉原**…みんな考えて学びもするしループしていく中で一人一人が変わっていくチャンスが無数にあられて、気づいたら…みたいな。それが市民活動の原点かもしれないですね。

今日はありがとうございました。

## NPO法人 親がめ

〒 221-0005  
横浜市神奈川区松見町 2-428-7  
TEL& FAX: 045-433-9133  
<http://oyagame.web.fc2.com/>



プレイパークの様子



# ローカルにたくさんの居場所と選択肢を

認定NPO法人こまちぷらすは「子育てをまちでプラスに」を合言葉に、子育てが「まちの力」で豊かになる社会を目指し、戸塚区の「こまちカフェ」や、企業と協働して「ウェルカムベビープロジェクト」の運営などを行っています。認定NPO法人こまちぷらす理事長の森祐美子さんにお話を伺いました。

## 小さな箱からの出口を作る

**吉原**…市民活動の原点という今回のテーマについてどのように思われますか？

**森さん**…市民活動という社会課題の解決ということになるので、しょうが、社会課題の単位って「世界」かもしれないし「日本」かもしれないし「横浜」かもしれない。本当はもっと小さな、顔の見える範囲かもしれないね。社会課題ってひとりの「困った」の集積じゃないですか。社会は集合体だから、社会的に解決されるもの、私と誰かの関係性で解決されるものがあるとして、大きな制度で解決されても、一人の「困った」が解決されなければその人は困ったままですよ。いかにローカルなレベルでの「困った」を狭めるこ

とができるかを考えないといけな  
いと感じました。

**吉原**…本当にその通りです。

**森さん**…ローカルな、名前や顔が見えたりする範囲の、たとえば徒歩でとか電車で一駅でという距離感のコミュニティがあって、「今助けて」ってときに今来てくれる存在がいること。

そしてそれだけでは窮屈なのでもっと理念とか概念とかでつながっているコミュニティがあって、そこがもっと行き来すること、ここから出られるということがとても大事なんだなって思っているんです。

**吉原**…小さなコミュニティは必要だけど、それだけでは苦しくなることもありますよね。

**森さん**…このカフェをやっていると思うのは、ここのような良い距離感



理事長の森さん

の関係性を求めているのにとり着くのが難しい、たどり着き方が分からない人が多いってことです。

市民活動の価値って、ここを小さなことなんだと思います。小さなコミュニティだけだと苦しくなっちゃうし、そうじゃない違う価値とも出会いたい。違う価値とも接しないと新しい価値を見つけられないじゃないですか。

自分の「困った」は箱の中に入っていて、解決策が近くにあってもそれが見えないものです。だからいつまでも困った状態から抜け出せない。でも違う価値観に触れた瞬間に結果的に解決しちゃうって

こともあるんですよ。

**吉原**…森さんもそういった経験がありますか？

**森さん**…私の場合、子育ては母がやらなきゃいけないって決めつけていました。

文化的習慣とか思想とか価値観とか、結構前の世代から認識しないで引き継いでしまっている部分が多分にありますよね。本当ならば子どもが「こうなりたい」というのが中心にあって広がっていくならいいけれど、環境に縛られてしまうこともあります。こまちぶらすとしても、私としても、ここをもちやんと揺るがしていきたいです。

**吉原**…揺るがすというと？

**森さん**…子育てはこうじゃないといけないっていうのを「ほんとにそうなの？」って。いろんな市民の声をぼーんと遠いところから戸塚に持ってくる。「私たちが当たり前と思ってることは本当に当たり前なの？」「次の世代に引き継いじゃっていいの？」と問うところからやらないと、負の遺産もそ

のまま残されてしまうんじゃないかと思っています。

### つながるチカラの呪縛

**吉原**…どうして森さんはそういうことを考えるようになったんですか。

**森さん**…いろんな困りごとや孤立を生んでいるのは何なんだろうと考えたときに結果的にこうだったんです。周りに人がいない社会的な孤立もあれば、「私なんてもうだめだ」みたいな感じで周りに人がいるのに遮断してしまっている孤立もありますよね。

今すぐく「強い個人」であることが求められちゃっていて、市民活動も含めてなんですけど、自らつながる力があって、コミュニティを形成する力も持っていることとか、こういった概念につながっているコミュニティに自ら入れることとか、それをすぐく求められている感じがあります。でもそれってすぐく難しいことですよ。

**吉原**…そうですね。私自身も子育て

の時は公園デビューなんて難しかったです。

**森さん**…最初から外に出られるわけじゃなくて、私ってこれでいいんだ、とか行ってもいい存在かもしれないとか、いくつかのことを超えていってはじめて飛び込めたり、ある日突然行けたりっていう瞬間があるのだと思います。今そういうステップを踏むために十分な場所や時間がなくて。ローカルで丁寧なそこをやる活動がどんどん増えていけば一人ひとりの「困った」が小さくなっていくはずですよ。

**吉原**…ローカルって言ったときにエリア的なローカル、やっぱり住んでいる場所みたいなことが大事だと思いませんか。

**森さん**…子育ては行動範囲に制約がかかる時期です。それは病気の人や高齢の方も同じです。そして何回か通わないと関係性が築けないですよ。だから物理的な距離の近さってすぐく必要なんだと思います。

これからもこまちぶらすとして



は、一つの場所をやっていくわけですが、たくさん増えて続いてほしいなっていうのを強く思いました。いろんな人にとってたくさん居場所や選択肢があればいいなと思います。

## 皆で考えていけるのがうれしい

**森さん**…今「ウェルカムベビープロジェクト」で企業と協働していますが、企業の人が「わたしも市民の一人なんだ」って気づく瞬間が大きな転換点だなんて思います。そういう瞬間って確実に起こりえるですよ。市民活動の価値をとらえなおすっていう時にパッとイメージするのが「○○団体の」とか「当事者の」とかですが、企業人としての私が「私事」として取り組みはじめたとき、ものすごくエネルギーを持って解決へ向かって動くパワーになるなあって「私」を取り戻したときは強いなっと思っています。

**吉原**…以前、とある方から「まちづくりってどういうものだと思う？」と聞かれて、私は「一人一

人の長所や才能やいいところをつないでいったら一人ではできないようなまちづくりができるんじゃないでしょうか」と答えたら、「いや、何一つ長所が無くてよ」と言われたことがあります。それがすごく刺さって。

**森さん**…「長所が無くてよ」っていうのはすごくどんと来ますね。協働っていうのは「できる」と「できない」が組み合わさってできるものだけど、「できる」ものが見当たらないこともありますよね。「役立ち」っていうのは時には暴力的な言葉かもしれない。違う見方からすると「役立たないと繋がれない」と捉えられうるんだなって。でも今すぐそれが求められる社会じゃないですか。

**吉原**…「包摂」の要素がないと市民活動じゃないのかもしれないね。拒否するのは簡単だけどそうじゃない方法を見つけ

たい、でも折り合いをつけないといけないっていうときにNPOだから皆で考えていけるっていいことですよ。

**森さん**…うれしいことですよね。時々本当に社会は変わってるんだろうかって思うことがあるんですが、他の団体の皆さんと集まって話して考えているときに未来はよくなるなって感じるんですね。

それはやっぱり子育てと一緒に自分たちだけでがんばらなきゃ、じゃなくて、みんなで背負っている、という感覚があるのかもしれない。

**吉原**…横浜市市民活動支援センターを11年運営させていたでいて、一つ一つの団体を見ていると、「その団体があつた横浜」と「なかつた横浜」は確実に違うと感じます。

どの団体と向き合っているでも思うんですね。少し想像してみたら団体の方自身もきつと分かると思います。

本日はありがとうございました。



こまちカフェの様子

## 認定 NPO 法人 こまちぷらす

〒 244-0003  
横浜市戸塚区戸塚町 145-6  
奈良ビル 2F  
TEL: 045-443-6700  
MAIL: staff@comachiplus.org  
https://comachiplus.org/

# 「孤の時代の距離感」

〈市民活動の役割を捉えなおす〉

早稲田大学文学学術院教授 石田光規さん

今号のテーマとなっている「孤」に対し、これからますます市民活動の役割は高まってゆくと考えています。

具体的に言いますと、市民活動が人びとの「居場所」として機能する場面が増えてゆくでしょう。この点について、まず、日本社会における「つながり」の現状について確認し、それから、市民活動の役割について論じましょう。

## 「つながり」が先細る現状

私たちは、戦後、長い時間をかけて、「つながり」そのものを選択肢とする社会を築き上げてきました。その根底には、つきあわなければならぬ「関係を「しがらみ」として敬遠し、お互いの意思によって選り合う関係を重視する私たちの意識があります。その意識と共鳴するかのようには、モノ、サービス、社会保障は充実し、私たちの社会は人と強制的に結びつく機会を失ってゆきます。かく

して、私たちは「一人になる」自由を手に入れました。しかし、一人になる自由は、同時に、孤独・孤立の不安も連れてきてしまいます。

そもそも、互いに人間関係を選び合う社会では、自由と不安が同居します。と言いますのも、「相手から選ばれないと関係から切り離される」という不安にさらされるからです。未婚者が増えている、孤立死が増えているといった現状は、人びとをより強い不安に駆り立てます。「私を受け入れてくれ

る人(場)はいない(ない)のではないか」という不安です。しかし、つながるきっかけを失ったなかで、つながりを再生していくのは容易ではありません。

## つながりづくりの困難

互いに人間関係を選び合う社会では、お互いにとって「よい」と思い合える関係が中心になります。友だち関係はその典型です。しかし、友だち関係というのは、意外と難しい側面があります。お互いにとって「よい」と思い合うことで成り立つ関係は、その「よさ」の維持に終始することもあります。お互いに居心地「よい」と思える範囲で成り立つので、困っていることや悩んでいることは、なるべく出さないようにします。困りごとや悩み事は、居心地「よい」場を乱す「悪い」ことだからです。友だちはいるのだけど、本音で話せないという悩みをもつ人は、少なくありません。

つながりを意図的に作り出すのも、そう簡単ではありません。

たとえば、行政がつながりの薄さを問題ととらえているとしても、人間関係を社会保障に組み入れることはできません。友だちづくりの場を提供したとしても、その場でどうすればよいのかわからない人、そもそも、そういった場が苦手な人はたくさんいます。意外と他にやることのある方が、それをとっかかりとして、つながりができる可能性があります。そのあたりに、市民活動の意義を見出すことができます。

## 「居場所」として

### 機能する市民活動

市民活動は、近年、何らかの困難を抱えた人に居場所を提供する役割を果たすようになりました。ここで大事なものは、対象との距離感です。たとえば、子育て支援をする認定NPO法人こまちぷらすでは、カフェを運営して、子育て中の人が気軽に立ち寄れる工夫をしています(P7参照)。先ほどもお話ししましたように、

友だちづくりの場というのは、構えてしまっても入れない人もたくさんいます。その点、カフェであれば、お食事などの理由で気軽に立ち寄ることができます。

また、NPOのスタッフは友だちと違い、「よい」と思い合える関係で成り立っているわけではありません。だからこそ、悩んでいること、困っていることを率直にはき出せることもあるのです。

効率化の進んだ現代社会では、「ただ雑談をする」といった「余白」の時間をもつことも難しくなってきました。営利から一歩離れた市民活動は、「余白」という余力をもって人びとを包み込んでゆくことが可能です。

近隣に代表される地域のつながりは、これまでに相当減ってしまいました。今後の20年は、家族のつながりもかなり減ってゆくことでしょう。そうなりますと、ほどうい距離感で人びとと接してくれる市民活動は、住民の居場所として重要な機能を担ってゆくでしょう。



こまちカフェでくつろぐ子どもたち

## 石田 光規 さん

早稲田大学文学学術院・教授 現代社会の人間関係や孤立をテーマに調査・研究を行っている。主たる著作に『孤立不安社会』(勁草書房, 2018年)、『つながりづくりの隘路』(勁草書房, 2015年)、『孤立の社会学』(勁草書房, 2011年)がある。

最後の **みみず** のつぶやま

横浜市市民活動支援センター責任者  
吉原 明香

「市民活動のチカラを心から信じられる者」

アニマート animato28号、ついに最終号となりました。

長い間のご愛読に心より感謝申し上げます。

さて、約11年センター運営にたずさわらせていただき、私たち職員がどう変えられていったのかについて、最後にお伝えさせていただければと思います。

「わりきらない姿」を見て

日々の厳しい運営の中にあっても、市民活動団体の皆様が、答えのない問いに向き合いつづける「わりきらない姿」を間近に見せていただいています。

行政であれば、公平・平等の原則、企業であれば、最終的には収益につながるかなど、ある程度「わりきる基準」

があると思いますが、NPOは悩みます。包摂的な社会を体現するものでありたいと願うからだと思っています。

「痛み」をエネルギーに変えて

自らの痛み（ペイン：過去のマイナスまたはプラスの体験などからくる自分自身の中から湧き上がってくる思い、情熱）をエネルギーとして、活動を続ける多くの実践者の方々と出会ってきました。

あきらめない、高みを目指す、相手をとエンパワメントする力をもっておられ、問題と向き合いながらも、前向きなパワーに溢れています。まさにアニマート animato、生き生きとした、活気のある、魂のある生き方に魅了されます。

皆さまにいただいた「心の持ちよう」

そのような日々の中、私たちは「市民活動のチカラを心から信じられる者」へと変えられていきました。

一つ一つの団体は小さくとも、厳しい現実を「つながること」で突破していく力への確信です。

この確信こそ、市民活動や協働の取り組みを推進する際に大切な「心の持ちよう」ではないでしょうか。

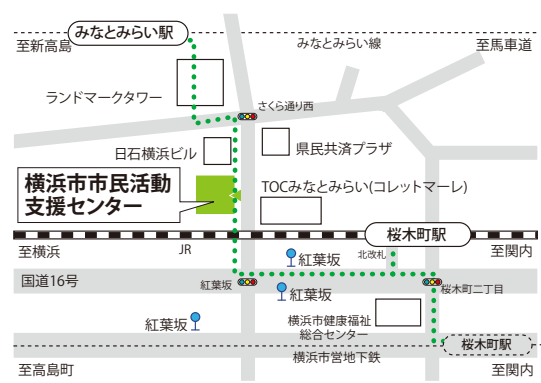
この確信を大きな財産としつつ、横浜市市民活動支援センターが機能拡充して生まれ変わる横浜市市民協働推進センターにつないでいきたいと考えています。

こちらからバックナンバーをご覧ください。



横浜市 Yokohama Citizens Empowerment Center  
市民活動支援センター

管理運営：認定NPO法人市民セクターよこはま  
<https://opencity.jp/yokohama/>  
 住所：横浜市中区桜木町1-1-56  
 みなとみらい21クリーンセンタービル4・5階  
 TEL：045-223-2666 FAX：045-223-2888  
 Email：daihyo@hamacen.jp  
 開館時間：月・土 9:00-21:00（10月から土 9:00-17:00）  
 日・祝 9:00-17:00  
 休館日：年末年始・第4日曜日（12月は第1・第4日曜日）  
 JR線「桜木町駅」北改札 徒歩5分  
 市営地下鉄線「桜木町駅」徒歩7分  
 みなとみらい線「みなとみらい駅」徒歩10分  
 発行日：2020年2月1日  
 デザイン・印刷：株式会社大川印刷



毎月メールマガジンを配信中。

アニマート ピコ

facebookもぜひご覧ください。

横浜市市民活動支援センター

ミックス紙 FSC® C008309

GREEN PRINTING JPP P-B10164

リサイクル適性 (A) この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

FSC® 森林認証紙、ノンVOC インキ（石油系溶剤0%）等印刷資材と製造工程が環境に配慮されたグリーンプリンティング認定工場にて、印刷事業において発生するCO<sub>2</sub> 全てをカーボンオフセット（相殺）した「ゼロカーボンプリント」で印刷しています。